

HAPS モバイル、NASA の評価委員会から テストフライトの実施に関する承認を取得

ソフトバンク株式会社の子会社である HAPS モバイル株式会社（以下「HAPS モバイル」）は、NASA（National Aeronautics and Space Administration、アメリカ航空宇宙局）の飛行機の試験実施許可および安全性の評価を行う委員会である AFSRB（Airworthiness and Flight Safety Review Board）から、アームストロング飛行研究センター（Armstrong Flight Research Center、以下「AFRC」）におけるテストフライトの実施に関する承認を取得しましたのでお知らせします。

これを受けて HAPS モバイルは、2019年4月に完成した、ソーラーパネルを搭載した成層圏通信プラットフォーム向け無人航空機「HAWK30（ホークサーティ）」による初のテストフライトを、AFRC で近日中に実施する予定です。

HAPS モバイルは、2019年6月から、米国カリフォルニア州にある AFRC で HAWK30 の研究開発を実施してきました。今後は AFRC でのテストフライトを経て、米国ハワイ州ラナイ島における成層圏空域でのテストフライトを 2019 年度中に実施することを目指し、準備を加速していきます。

ソフトバンク株式会社の代表取締役 副社長執行役員 兼 CTO であり、HAPS モバイルの代表取締役社長兼 CEO である宮川 潤一は、次のように述べています。

「NASA から、テストフライト実施に関する正式な承認を得られたことを大変うれしく思います。この承認によって、成層圏での商用化に向けて大きく前進できます。AFRC でのテストフライトを早期に実施し、現在準備中のハワイ州・ラナイ島の成層圏空域でのテストフライトの成功へつなげていきたいと考えています。HAPS モバイルは、情報格差のない世界を目指し、HAPS を通じたモバイルインターネット革命に取り組んでいきます」

■HAPS モバイルについて

HAPS モバイル株式会社は、ソフトバンク株式会社の子会社です。世界の情報格差をなくすことを目指し、HAPS（High Altitude Platform Station）事業を企画・運営しています。主に、HAPS 事業に向けたネットワーク機器の研究開発や、コアネットワークの構築、新規ビジネスの企画、周波数利用に向けた活動などを行っています。米 AeroVironment, Inc.は、地上約 20 キロメートルの成層圏で飛行させる、HAPS モバイルのソーラーパネルを搭載した成層圏通信プラットフォーム向け無人航空機「HAWK30」の機体開発パートナーです。また、HAPS モバイルは、米 Alphabet Inc.の子会社である Loon LLC と戦略的關係に合意しています。詳細はホームページをご覧ください。